

ラジオ放送「福音の光」説教

「真の力の源」

使徒の働き 1 章 8 節

姫路あけぼの教会牧師 廣田守男

「しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」

皆さん、おはようございます。お元気でお目覚めでしょうか。ラジオやテレビ等で「今日は何の日」との問いかけ、それに対する具体的な説明がなされています。さて、皆さんにとって今日は何の日でしょうか。それぞれに思い当たる事がありではないでしょうか。

今から約 2 千年前、エルサレムで起こった出来事です。今年の暦で言えば、4 月 17 日にイエス・キリスト様がすべての人の救いのために十字架に架かり、死んで墓に葬られ、三日目の 17 日に死人の中から復活された復活祭です。その復活されたイエス・キリスト様が多くの群衆の目の前で神様の御許に昇天された日が 5 月 26 日なのです。その直後から主イエス様の 11 人の弟子たちやイエス様のお母さんや兄弟たち及び女性たちや多くの人々が一緒に集まって、神様の前に跪いてお祈りを始めたのです。それから 10 日後の 6 月 5 日は聖霊降臨日で、弟子たちや集まっていた 120 名の人々に神様が約束された聖霊を注がれたのです。そしてイエス様の筆頭弟子であり、かつて主イエス様を否定したこともあるペテロが大胆に立ち上がり、「あなたがたが十字架に付けたイエス様が救い主である」と祭りに集まっていた人々に語ったのです。その話を聞いた人々の中で三千人の人たちが罪を悔い改めて洗礼を受け、歴史的な意味でこの地上に初めてキリスト教会が誕生したのです。

イエス・キリスト様が全人類のために十字架上で死に、墓に葬られ、三日目によみがえられ、40 日の間、弟子たちや多くの人々に顕れ、ご自分が生きておられることを示し、話しておかなければならない大切なことを語られたのです。そして最後に「エルサレムを離れず、前にわたしから聞いた、父の約束されたものを待ちなさい」と命じられ、「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、… 地の果てに至るまで、わたしの証人となる」と約束されたのです。

私はこの地上からいなくなるが、私の代わりに「聖霊」をあなたがたに遣わす。その「聖霊は一人ひとりに力を与えてイエス・キリストを証しする人に変えられるのだ」と語られたのです。聖書の他の箇所にも、聖霊は一人ひとりの「助け主」である。「すべてのことを教え」て下さる。「私が話しておいたことを思い起こさせる」。悲しみ痛んでいる人を「慰める」。弱い立場の者を「弁護し、執り成して下さる」。更に、自分の罪

深さを知って苦しんでいる者に「イエス様は救い主」であることを示し、イエス様の十字架による功によって、罪の赦しの確信を与えて下さる、事等の働きをして下さるのです。

皆さん、「力」という言葉に魅力を感じられませんか。私には「力がない」「弱い」「足りない」もっと「強くなりたい」と思っておられませんか。この力というのはポパイのようにほうれん草を食べて与えられる肉対的な力ではなく、私たちの心を強くする力なのです。イエス様の弟子の一人ペテロはそそっかしい人でありましたが、また肝心要の時に逃げ腰になる弱い弟子、臆病者でもありました。しかしそのペテロも聖霊に満たされることによって力強い働きをする人に変えられたばかりか、最後にはローマの地で十字架に逆さに磔にされ、殉教したのです。

私は、高校生の時、社会科の授業で、教科書に「放蕩息子」の記事があり、先生が「この中にクリスチャンがいるか。その人は手を上げろ」と言われた時、私は洗礼を受けていたにもかかわらず手を挙げられなかったのです。後で友達になぜ手を挙げなかったのかと言われ、自分が惨めな情けない者であることを実感したのです。

皆さん方の中にも、「誘惑に勝てない」「はっきりと意思表示が出来ない」「肝心要の時に弱腰になり」「すぐにあがってしまう」「人を許すことができない、愛することが出来ない」「弱い人を思いやることが出来ない」等、自分の欠点弱点に気が滅入っている人はいませんか。神様は私たちの一人ひとりの実情を知って下さり、弱いところ、欠けていることが何であるかを知って、助けたい、救いたい、勇気を与えたい、豊かな人生を送って欲しいと願っておられるのです。

そのために多くの人々が神様の前に跪いてお祈りした様に「私にも聖霊を与えてください。勇気と力を与えて下さい」とお祈りしようではありませんか。皆さん方が天の父なる神様を信じ、主イエス様に信頼し、祈り求め、幸いな生涯を歩んで下さることを願って止みません。